

油粕を飼料として利用できる ナタネ新品種「きらきら銀河」

ナタネ油は国内で最も消費量が多い植物油です。国内産ナタネでは、種子を搾って得られる油は食用に、搾った後のミール（油粕）は主に肥料として利用されています。ダブルロー品種は、油中にエルシン酸（栄養学的に望ましくないとされる脂肪酸）を含まないので食用油に適しています。さらに、種子中のグルコシノレート（摂取すると甲状腺肥大を引き起こす成分）をあまり含まないため、ミールは肥料としてだけでなく飼料としての適性も高く、ナタネの多角的な利用が可能です。

しかし、これまでのダブルロー品種「キラリボシ」は、寒冷地において作付面積が多い無エルシン酸品種「キザキノナタネ」より収量が低いことから、より多収のダブルロー品種が求められていました。そこで、私たちは寒冷地に適したダブルロー品種「きらきら銀河」を育成しました。

《「きらきら銀河」の特徴》

「きらきら銀河」は「キザキノナタネ」と比較して開花期は同程度、成熟期はやや早く、草丈は高いです（表、写真）。耐倒伏性及び寒害抵抗性は、「キザキノナタネ」と同程度です（表）。収量は、「キザキノナタネ」や「キラリボシ」と比較して多く、含油率が「キザキノナタネ」よりやや高いです（表）。油中にエルシン酸を含まないので、食用油に適しています。また、グルコシノレート含量が「キラリボシ」と同程度に少なく、ミールを飼料として利用できます。

畑作園芸研究領域

川崎光代

KAWASAKI, Mitsuyo



きらきら銀河 キザキノナタネ キラリボシ
写真1 / 「きらきら銀河」の草姿



写真2 / 開花時期の「きらきら銀河」

ですので、播種前に細かく砕土してください。

《「きらきら銀河」への期待》

「きらきら銀河」は「ナタネの花が銀河のようにきらめいて咲いている様子」をイメージして名付けられました。「きらきら銀河」を利用した食用油の商品開発および国産ミールの飼料利用が拡大するように期待しています。

表 / 「きらきら銀河」の特性（2010～2013年の平均）

品種名	きらきら銀河	キザキノナタネ	キラリボシ
開花期（月日）	5.09	5.09	5.10
成熟期（月日）	7.01	7.04	7.02
草丈（cm）	157	143	132
菌核病抵抗性	やや弱	強	やや強
寒害抵抗性	強	強	やや強
耐倒伏性	強	強	強
収量（kg/a）	33.1	31.0	24.4
キザキノナタネ比（収量）（%）	107	100	79
千粒重（g）	2.8	4.0	3.2
含油率（%）	45.2	44.4	43.0
エルシン酸含有率（%）	0.0	0.0	0.0
総グルコシノレート含量（ $\mu\text{mol/g}$ ）	10.3	164.8	10.4

注. 栽培地：育成地（盛岡市）
総グルコシノレート含量のみ 2011～2013年の平均値

《「きらきら銀河」栽培上の注意点》

菌核病に対する抵抗性は、「キザキノナタネ」より弱いいため、農薬などによる適切な防除を行うとともに多発地域での栽培を避けてください。種子は「キザキノナタネ」より小粒